

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 3月15日

配布数 5

回収数 5

事業所名 アートチャイルドケアSEDスクールイオンタウン川西

	チェック項目	割合(%)			工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	いいえ	無回答		
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	40.0%	60.0%	0.0%	・基準にそった面積であるが、常設フレームの脚など接触、転倒の可能性もあるため、プログラムの構成や環境設定を工夫し、必要に応じて個室や廊下等も使用していく。	
	2 職員の配置数は適切である	20.0%	80.0%	0.0%	・開所したばかりで利用も少なく対応できている。今後の利用(登録)人数が増える時期に向けてプログラム内容や活動場所など検討していく。	お子さまの利用人数の増加に合わせて、人材を確保を実施していく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	80.0%	20.0%	0.0%	・バリアフリー化や情報伝達等への配慮はなされていると思う。障がいの特性に応じて必要な環境設定をして、できるだけ一人一人に合わせた生活空間を作っていく。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100.0%	0.0%	0.0%		
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80.0%	20.0%	0.0%		
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100.0%	0.0%	0.0%	・保護者からの意見は真摯に受け止め、より良い支援の提供を職員全員で目指していく。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80.0%	20.0%	0.0%		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80.0%	20.0%	0.0%	・話し合いの場は確保できていると感じる。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	60.0%	20.0%	20.0%	・担当者の主観のみとならるように、会議の場において、様々な資格と経験を持つ職員それぞれの見立てより、支援の方向性を考えていく。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80.0%	20.0%	0.0%		
	11 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	60.0%	40.0%	0.0%		
	12 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	80.0%	20.0%	0.0%		
	13 活動プログラムの立案をチームで行っている	80.0%	20.0%	0.0%		
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100.0%	0.0%	0.0%		
	15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	60.0%	40.0%	0.0%		
	16 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	80.0%	20.0%	0.0%		
	17 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100.0%	0.0%	0.0%		
18 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	80.0%	20.0%	0.0%			
19 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	60.0%	40.0%	0.0%			
関係機関や保護者と	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	80.0%	20.0%	0.0%	・担当者会議は、可能な限りお子様担当職員とスクール長で参加し、関係機関と情報共有できるよう取り組んでいく。	
	21 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	80.0%	20.0%	0.0%	・日々の支援を最優先としながら対応可能な範囲で積極的に連携に取り組んでいく。	
	22 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	60.0%	40.0%	0.0%	・日々の支援を最優先としながら対応可能な範囲で積極的に連携に取り組んでいく。	
23 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	40.0%	60.0%	0.0%	・日々の支援を最優先としながら対応可能な範囲で積極的に連携に取り組んでいく。		

の連携	24	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	60.0%	40.0%	0.0%	・日々の支援を最優先としながら対応可能な範囲で積極的に連携に取り組んでいく。	
	25	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	40.0%	60.0%	0.0%	・日々の支援を最優先としながら対応可能な範囲で積極的に連携に取り組んでいく。	
	26	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100.0%	0.0%	0.0%	・カンファレンスの時間を活用し、職員全員において共通理解を持てるよう努めている。	
保護者への説明責任等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	80.0%	20.0%	0.0%		
	28	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	80.0%	20.0%	0.0%	一人ひとりのお子さまのケースについてカンファレンスを行い、職員全員で方向性を共有しています。その上で作成された支援計画は保護者様に丁寧に説明を行い同意を得るよう取り組んでいます。	
	29	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	80.0%	20.0%	0.0%	・セッション後の保護者からの悩みや相談についてはその都度対応しているが現時点では定期的には行っていません。	・振り返りの時間は活動の振り返りだけでなく、日々の保護者様の悩みも含めて相談対応していく。
	30	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	80.0%	0.0%	20.0%		
	31	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	60.0%	20.0%	20.0%	・会報は発行していないが、体験会などのご案内、活動内容はイオンタウン社のツールなども活用しつつ、連携して発信している。	
	32	個人情報の取扱いに十分注意している	100.0%	0.0%	0.0%	・書類廃棄ルールの徹底、離席時のパソコン画面の非表示など留意している。	・個人情報に取り扱いについては、定期的に研修を行い、絶対に漏れることのないように留意していく。
	33	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100.0%	0.0%	0.0%		
非常時等の対応	34	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	80.0%	20.0%	0.0%	・避難訓練は開所したばかりでこれからの実施となるが、マニュアルと周知はできている。 ・避難訓練は定期的に行っていく。	マニュアルについては社外秘となっているため、公表の予定は御座いません。年2回の避難訓練を実施しています。
	35	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	40.0%	60.0%	0.0%	・避難訓練は定期的に行っていく。	
	36	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	80.0%	20.0%	20.0%	・プロフィールシートを使って情報把握に努めている。	
	37	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	60.0%	40.0%	0.0%		
38	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	60.0%	40.0%	0.0%		毎年定期的に会社主催の研修があり、今後受講予定です。	